



新町70周年記念

写真で振り返る 白い森の国おぐに No. 5



⑤羽越水害後、道路を洗い流す消防団員（昭和42年9月）

昭和42年8月28日から29日にかけて降り続いた豪雨により町内の全河川が氾濫し、各所で土砂くずれが発生しました。家屋が流失・浸水し、農地や道路、鉄道、通信施設等にも大きな被害が出るなど未曾有の大災害をもたらしました。

長年、消防団活動に従事された元小国町消防団長の小池泰男さん（小國小坂町）は当時の様子について「水害発生時は飯綱橋で河川の警戒にあたっていました。降り続く雨によって川の水が欄干まで上がったため急いで退却したことを覚えています。水が引いた後は、孤立した避難者の救助や行方不明者の搜索、ポンプを使用した排水等に従事しましたが、どれも大変な任務でした」とお話しくださいました。

（写真撮影：加藤憲一氏 写真寄贈：加藤敏昭氏）